

中北海道

現代俳句協会

会 報
104号

令和7年
7月22日発行

発行人 五十嵐 秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007

札幌市中央区宮の森二条八丁目の一八Fよしと方

編集人 青山 醉鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457

恵庭市島松旭町四丁目九の一

父の川柳



中北海道現代俳句協会幹事

阿部 満子

私が俳句を始めたのは四十歳代半ばの頃。

出張の途中で買った新聞の俳句コーナーに目が留まった。最小限の言葉で物事の本質を言い表していると感じた。カルチャースクールで日曜日の俳句教室があることを知り入会した。それほど意気込んで始めた訳ではないが、何冊かハウツー本も買った。俳句らしきものを作り始めた数か月後のある朝、突然私は思いついた。四十歳代半ばの父が川柳を作っていたことを。

同じような歳に川柳と俳句の違いはあっても、同じ五七五の定型をもつ文学に親しんでいること。それまでまったく意識したことのない血とか、DNAとかの隠れた力のようなもの。父は感情をあまり顔に出さなかったし、

一緒に遊んでくれた思い出もほとんどない。

それなのに、私は父と同じことをしている。頭の中に横溝正史原作、映画「犬神家の一族」の犬神佐兵衛が、死して長女の松子に次々と人を殺める呪いをかける、そんな場面が浮かんだ。ひえー。私は本当に出勤途中の近所の小学校の前で声を上げそうになった。いやまて。この時父はまだ生きている。

地方公務員の父は、転勤先の稚内で「川柳宗谷」という句会に所属していた。日曜日に句会があり、帰ってくると句会報のガリ版刷りの原稿を作っていた。父は役所が出す表彰状を頼まれて書くほど達筆だった。川柳と、夕飯時に漬物名人の母が作る料理を着に一杯の酒を飲むことを、父は楽しんでいた。

昭和四十一年に稚内から浦河へ、その四年後に札幌へ転勤になった。稚内を離れた後、父は句会に参加しなかったが、句作は続けていたようだ。平成二十一年に父が亡くなって、父自作自筆の川柳を書き留めた五冊の小さな本を形見代わりに貰った。「眇（すがめ）」というタイトルがついている。

栄転も左遷も同じ驛を発ち

自笑

「自笑」というのは父の川柳の号である。

父は長男で札幌に老いた両親のいる実家があったから、札幌が転勤希望先だったが、希望する転勤先に希望するポストがあるわけではない。札幌への転勤は叶ったが希望するポストではなかった、と後に母から聞いた。

便利屋でたらい廻しという浮き目 自笑

野球ならまた残塁というポスト

うまい下手の判断はさておき、世の中を上目遣いで眺めるサラリーマン川柳の典型であろう。他人の作ならアハアハ笑っていられるが、わが父の作となると汗顔ものである。

父の葬儀で「出棺いたします。最後のお別れをして下さい」の声を聞いたとき、私の喉の奥から、ううっという声が上がってきた。止めることができず、私はしゃくりあげて泣いた。なぜか母が亡くなったときも、夫が亡くなったときも、私は泣けなかった。

お父さん、真面目だったけど出世とは縁遠い人生だったかもしれないね。でも、私に詩歌や言葉に対して、何かを感じる心だけは残してくれたようです。私がそちらへ行ったときには、お酒を飲みながらゆっくり川柳と俳句の話をしようよ。

古靴縫い目から夢こぼれ落ち

自笑

茄子漬や父の川柳わが俳句

満子

(あべ・みちこ)

第三十四回

中北海道現代俳句大会報告記

安 田 中 彦

R7. 4. 6 (日)
於 かる 2・7

薄曇りの当日、会場には会員五〇名が集った。司会は事務局長Fよしと氏。事業部長中田琢志氏の開会の言葉につづく五十嵐秀彦会長の挨拶では、中北海道現代俳句協会成立当時を知る者はほぼいなくなったが、継承していくべき精神があること等が述べられた。

講演は北海道芸術文化アーカイヴセンター代表／事務局長の古家昌伸氏。演題は「俳句年鑑を読む／アーカイヴの愉しみ」。文芸の記録と批評の重要性についての話に始まり、北海道俳句年鑑創刊の頃のこと、一九五五年当時の北海道俳壇のこと等を語られ、最後に年鑑の現在の状況に触れられた。

次に、永野照子顧問の第四十五回北海道現代俳句協会鮫島賞受賞が紹介され、氏のカルチャースクールで学んだ阿部満子氏から花束が贈呈された。

俳句大会は、五十嵐会長、永野顧問、松王かをり・瀬戸優理子両副会長、特別選者・古家氏の講評の後、青山醉鳴氏の披露のもと顕彰が行われた。続いて、第二十五回中北海道現代俳句賞の表彰。今回の受賞者はFよしと氏。選考委員長・齋藤雅美氏による選考経過報告の後、ペガサス札幌句会の村瀬ふみや氏、

【Itak】と雪華俳句会の青山氏から花束が贈呈された。最後に東北北海道現代俳句協会会長の石川青狼氏から、六月開催の北海道現代俳句大会への投句および参加のお誘いがあった。

懇親会は、札幌ガーデンパレスにて。参加者三十三名。司会は参与・石本雪鬼氏。五十嵐会長の挨拶、監査・齋藤氏の乾杯の後、和洋中華の会食を楽しみながら、活発に交流を行った。F氏の御開きの乾杯と中田氏の閉会の言葉をもって宴を終えた。

(やすだ・なかひこ「香天」同人)

第三十四回 中北海道現代俳句大会

入 賞 作 品

大会賞一位

帯広市 松 原 静 子

日向ぼこ少し壊れた人という

大会賞二位

札幌市 大河原 倫 子

白詰草嬰は地球をまるく這ひ

大会賞三位

江別市 長 野 君 代

大白鳥やまことばへ着水す

雪 嶺 賞

札幌市 永 野 照 子

鉄線花かすかに風の錆びてゐる

縦 賞

札幌市 阿 部 満 子

青空は死者に開けてそばの花

草木舎賞

札幌市 鴛 田 康 之

冬日やわらか顔見せに來ただけの人

アジール賞

札幌市 林 冬 美

沈黙は言葉の一つ雪深し

雪 華 賞

札幌市 平 尾 知 子

手回しの鉛筆削り一葉忌

佳 作 賞

札幌市 中 田 眞 知 子

水中花彼の世へ水を入れ替へて

小樽市 高 畠 葉 子

ソーダ水ここから海を始めます

南幌町 瀬 戸 優 理 子

白鳥が次々進路相談室

札幌市 小 川 桂

手袋越しの握手でした故郷は

札幌市 風 花 美 絵

凍鶴や布巾は白く畳まれる

札幌市 長 田 明 美

またねとは曖昧なのよ桃を食む

札幌市 遠 藤 由 紀 子

青空へ免許返納木の芽風

千歳市 久 才 透 子

月白や海へとつづく馬柵ひくく

札幌市 松 王 かをり

葛湯吹く論破の果てのさびしさに

札幌市 倉 部 仁 子

雪しづか終の栖の太柱

札幌市 菅 井 美 奈 子

星冴ゆる未完の馬の嘶いて

札幌市 安 田 中 彦

百年を小樽に生きて日向ぼこ

札幌市 加 藤 由 花

坂道を上り銀河の祖父の家

※一人一賞のため賞外

札幌市 永野 照子
語尾ゆるむ母の形見に着ぶくれて

札幌市 永野 照子
ゆく秋へ付箋をつけてあるページ

札幌市 永野 照子
秋蝶の空深くして連写音

札幌市 中田 眞知子
ふるさとの空気を孕み春キャベツ

札幌市 眞知子
小春なりレジの少女の浜訛り



講演会での古家昌伸氏。プロジェクターで次々と資料が
掲示される。

会員内外のみなさまより数多くの大会出句を
頂き、また当日も大勢ご参加くださいましたこ
とに心より感謝いたします。
(事業部一同)

北海道俳句協会
第七十回全道俳句大会
入賞作品(関係分)



全道俳句大会『俳句の現在—2025年』を講演する
一般社団法人現代俳句協会副会長の小林貴子氏。

札幌市長賞 札幌市 荒川 弘子

武者絵風大見得切つて墜落す

朝日新聞北海道支社賞 札幌市 腰崎 玲子

予後の掌に命の重さ寒卵

北海道俳句協会賞五位 札幌市 平尾 知子

草刈つて先生の声よく通る

北海道俳句協会賞六位 札幌市 信藤 詔子

霧よりも濃く少年靴の音

※一人一賞のため賞外

大夕立岬の馬を丸洗い 札幌市 平尾 知子

(令和七年六月七日／かでる2・7)

第35回 北海道現代俳句大会のご案内 (北北海道現代俳句協会主管)

- ◇日時 令和8年6月14日(日) 13時より 大会会費 1,000円
- ◇場所 旭川トーヨーホテル(旭川市7条7丁目右1号)
TEL 0166-25-7575
- ◇講演 家藤 正人氏(俳人・株式会社夏井&カンパニー) 演題「未 定」
- ◇講評 道内主要作家
- ◇応募規定 2句1組 1,000円 所定用紙または原稿用紙を使用、投句料は作品に同封のこと
- ◇応募先 〒078-8320 旭川市神楽岡10条1丁目2-2 加藤ひろみ
- ◇出句締切 令和8年3月末頃(詳細未定)
- ◇懇親会 大会後同会場にて 懇親会費未定(当日受付にて)

◆ 詳細は引き続き会報105号・106号にてお知らせいたします ◆

東北海道現代俳句協会主管 第三十四回北海道現代俳句大会報告記

中村 みずほ

R7. 6. 8 (日)
於 釧路センチュリー
キャッスルホテル

東北海道現代俳句協会主管の第三十四回北海道現代俳句大会が釧路にて開催され、全道各地から五十三名、中北海道現代俳句協会からは会長他一〇名が参加しました。東北海道現代俳句協会の石川青狼会長のお心遣いと夏の釧路には珍しい晴天にも恵まれて、たいへん充実した大会となりました。

五十嵐秀彦中北海道現代俳句協会会長の「飛ばない鳥は飛ばない鳥」俳句を「読む」ということ」と題した講演は、そのタイトル通りたいへん刺激的で、示唆に富むものでした。俳句は季語の力を借りた十七音の象徴詩であるということ、そして「読み」があつてこそ作品は完成するということ。さらに、俳人は自分の作品だけではなく、たくさんの方々に興味を持ち、鑑賞することで自分と向き合う面白さを味わい、自分の世界を拡げて行くべきである、ということなど。石川青狼会長との丁々発止のやり取りもあり、熱のこもった話ぶりにすっかり惹きつけられ、瞬間に時間が過ぎていきました。

第二部の俳句大会では、投句総数一三三名、五四六句の中から、二十三名の入賞作品の披露と顕彰が行われました。別室に会場を移し

ての懇親会には三〇名が参加して交流を深めました。石川青狼会長の挨拶にはじまり、東・南・中北海道とそれぞれのスピーチも和やかに、最後は来年の大会を主管する北北海道現代俳句協会・加藤ひろみ事務局長の挨拶で再会を約束し、お開きとなりました。

(なかむら・みずほ 「雪華」同人)

第三十四回 北海道現代俳句大会 入賞作品(関係分)

第一位 札幌市 石井美髯

早春を食べる分だけ採りに行く

佳作賞 札幌市 信藤詔子

蟹気楼この世にもどるところなし

札幌市 安田中彦

夜の蟬脳は扉の多き部屋

札幌市 小川桂

ピーマン縦割り「叫び」の顔が十個ほど

札幌市 今堀冷子

白牡丹かすかに嘘の匂いする

札幌市 古川和

噴水やベンチにあまた人の殻

札幌市 井尾良子

しわくちやな昨日を伸ばしさくら餅

札幌市 近藤由香子

ヒトといふ鬼が鬼役鬼やらひ

※一人二賞のため賞外 札幌市 小川桂

合掌は卵のかたち海明ける



講演の五十嵐秀彦当会会長



第一位の石井美髯氏と
石川青狼東現俳会長

◆ 道内各地区現代俳句大会 ◆

第三十五回 北海道現代俳句大会 入賞作品(関係分)

北北海道現代俳句協会会長賞

札幌市 藤原ハルミ

雁渡る星座のやうな廃線図

細氷賞 比布町 村一草

流水の近づく醤油差しに鱈

(令和七年四月二〇日／ときわ市民ホール)



会長賞の藤原ハルミ氏



細氷賞の村一草氏

令和7年度中北海道現代俳句協会 「俳句研究交流句会」のご案内

〈事前投句とし、当日は選句・選評に十分な時間を割きます〉

- 1 日 時 令和7年8月30日（土）受付開始11時30分・開会12時・閉会15時40分ころ
- 2 会 場 かでる2・7 520研修室 札幌市中央区北2条西7丁目 TEL 011-204-5100
※昼食は各自お済ませ下さい
- 3 出句締切 令和7年8月12日（火）消印有効
- 4 会 費 1,000円（当日受付・学生無料）
- 5 問 合 先 組 織 活 動 部 鹿岡真知子 TEL 011-694-6075
または事務局 F よ し と TEL 011-641-1007
- 6 送 付 先 〒005-0022 札幌市南区真駒内柏丘1-6-7 近藤由香子 TEL 011-584-0234

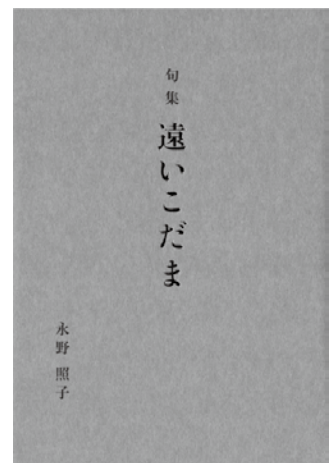
第四十五回鮫島賞 北海道俳句協会

去る一月十一日に行われた北海道俳句協会の各賞選考会に於いて、中北海道現代俳句協会顧問・永野照子氏の第三句集『遠いこだま』が、第四十五回鮫島賞を受賞しました。おめでとうございます。以下に自選四〇句を掲載します。

『遠いこだま』 永野照子

春の卵遠いこだまを聴いてゐる
物の芽も刃物も雫こぼしけり
二月風葬三月鳥葬金平糖
月おぼろ魂を春づく鳥のゐて
松籟のをちかたにあり更衣
水底へつづく階段盆用意
一體の鹿運ばれて昼の月
檻樓市の葡萄唐草蚯蚓鳴く
弔問の語尾鶏頭の襷に消え
水の上のしづかな疲れ蓮の実
言葉まだ使はずにゐる雪蛭
切り取り線はづれ海鼠の蹲る
銀の音叉にからみ蛇の衣
顔剃つて眉の残りし半夏生
大寒の湖底に水の横たはる
涅槃会や人と柱と凭れ合ふ
花おぼろ削り眼の削り仏
列島炎暑しづかに篩ふ薄力粉
瓶のものの瓶へ移して秋初め

柿簾よもつひらさか日の射して
月光をたつぷり広口硝子瓶
ふくろふの重さふくろふ写真集
歳晩のキッチン猫の手の行き交ふ
おほぜいとゐるやうに雛飾りけり
連翹明かり厨明かりへつながらり
遺されし手帳に木の名小鳥来る
大枯野風も私も遺失物
海坂へさしかかりたる白日傘
胡瓜揉む生者あつまる寂しさに
調弦の始まつてゐる芒かな
胡桃落つすこし跳躍して老人
流水を敷きつめスプーンにある磁力
右心室わすれなぐさが咲いてゐる
高架まだ脚のみサビタの花に雨
鉄瓶の鉄勾ひけり原爆忌
馬の瞳の枯野誰かが入り行く
海明けやブーケ・ガルニを引きあげる
花なづな柩ひとり分の深さ
砂時計の砂に地平のある冬至
橋向かうに日差しの動く冬すみれ



印刷・製本（株）アイワード

礎

伊藤凍魚

略歴 明治三十一年～昭和三十八年、享年六四。会津若松生まれ。原石鼎に師事し「鹿火屋」「ホトトギス」に投句。大正十四年、樺太で「氷下魚」を創刊。昭和二〇年、上京中に終戦となり樺太に戻れず札幌に居住。昭和二五年、飯田蛇笏来道時随伴以後師事し「雲母」同人。昭和二十九年、比良暮雪らとともに「氷下魚」復刊。北方俳句の拠点として支持を得た。北海道新聞俳壇選者、NHK聴取者文芸選評担当。句集『花樺』『氷下魚』ほか。

ものの芽の雪降るときも旺んなり
おのづから空にみちあり鳥わたる
沼の辺のみちやはらく水芭蕉
霧あけて山霊あそぶ駒草に
樺太を浄めの雪や神の旅

「雪華」五十嵐 秀彦 抄出

南利一

略歴 大正九年～平成二十二年、享年九一。札幌市生まれ。昭和二十二年復員待機中より句作開始。昭和二十二年「青炎」入会、富岡木之介に学ぶ。昭和二十六年「氷原帯」入会、編集同人となり細谷源二に師事。三十二年「氷原帯」で親交を深めた北光星らと共に同人誌「磔」創刊。三十二年、家業の馬鈴づくりと転職後の屑屋の境涯を詠んだ第一句集『鈴師』刊行、注目を得る。四十九年第二句集『青い鸚鵡』。五〇年札幌市民文化奨励賞受賞。

童話めくけど雪に灯して鈴造る
犬に曳かせ暁星拾い屑ひろい
歩道の凍て善人にしてよく転ぶ
青い茶房の青い鸚鵡は別れの鳥
早天の素早い濡れ場人形劇

「ベガサス」瀬戸 優理子 抄出

〔青のフロント 四月〕 佳句抜粋

少女起立しつつ春の沖にあり 五十嵐 秀彦
荷風忌の紅茶に混ぜる角砂糖 F よしと
猫やなぎ飢餓の子どものいる世界 芳賀 たかこ
鵲の声に驚く杜甫の春 谷 花丸
偏愛は無茶を通してよなぐもり 近藤 由香子
夜の風だんだん強く亀鳴けり 林 冬美
心身の健康測るお茶の味 石 本 雪鬼
曲水や電子辞書では間に合はず 中 本 伸一
夕がすみ橋の消失点は黄泉 増 田 植歌
潦ビルの深さの春の雲 荒 船 青嶺
茶番劇眺めてゐたる春炬燵 松 山 りさ
囀りののびらかに抹茶カフェの町 村 瀬 ふみや
崩壊の蜂の古巣の殻拾ふ 加 藤 寒月
春愁や電話ボックス繭めきて 藤 原 ハルミ
茶簞笥の奥に隠した桜餅 中 村 みずほ
ゆきげゆり咲かせ北大植物園 青 山 酔鳴

青のフロントご案内

日時 偶数月第二土曜日午後一～四時
会場 かでる2・7 当日参加可
席題有 当季雑詠三句
問合先 五十嵐秀彦
TEL 〇一一八五二七〇一四
会員以外の参加も歓迎します。皆様お誘いあわせの上お越しください。

〈第35回 中北海道現代俳句大会〉

- 1 日時 令和8年4月5日（日）13時より
- 2 会場 かでる2・7 710号室 中央区北2条西7丁目
- 3 会費 大会費：1,000円 当日支払（学生無料）
- 4 講演 未定 演題「未定」
- 5 講評 道内外主要作家
- 6 出句 令和7年12月応募開始～令和8年1月中旬頃締切 ※詳細決定次第ご案内
- 7 問合先 〒062-0020 札幌市豊平区月寒中央通10丁目1-1-301 中田琢志方 TEL 090-3898-2322

○ 第26回中北海道現代俳句協会賞顕彰も行います

〈第31回 東北海道現代俳句大会〉

- 1 日時 令和8年4月19日（日）（時刻未定）
- 2 会場 釧路市内（会場未定）
- 3 講演 石川青狼氏・粥川青猿氏 演題「鈴木八駄郎を語る（仮題）」
- 4 出句 令和7年12月応募開始～令和8年1月下旬頃締切 ※詳細決定次第ご案内
- 5 出句先 〒088-0612 釧路郡釧路町雁来1-34 西村奈津方 TEL 0154-36-7823
- 6 問合先 〒084-0903 釧路市昭和町2-15-4 鮎橋郁香方 TEL 0154-55-4588 FAX 0154-68-4018

※懇親会等の詳細はどちらも引き続き会報105号・106号にてお知らせいたします

第26回 中北海道現代俳句賞 作品募集

〈 応 募 要 領 〉

- 1 応募作品 題名をつけ、未発表20句（過去の応募作品の再応募は不可）
- 2 募集期限 令和7年12月15日消印まで
- 3 募集対象 令和7年11月15日現在、中北海道現代俳句協会会員の方
または石狩空知後志振興局管内にお住まいの非会員の方
- 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報104号に同封
※非会員の方は顕彰係へ返信用封筒に〒・住所・氏名を記載し
切手貼付のうえ指定の用紙を請求下さい
※以下の協会HPからダウンロードも可能です（A4にて2枚）
<https://gendaihaiku.gr.jp/area/naka-hokkaido/>
- 5 応募方法 応募料3,000円を定額小替為、または現金書留にて指定用紙同封
- 6 顕 彰 令和8年4月の中北海道現代俳句大会席上
- 7 作品送付先 〒061-2284 札幌市南区藤野4条5-19-6
菅井美奈子方 中北海道現代俳句協会 組織活動部行
- 8 選 者 五十嵐秀彦・石川美智子・齋藤雅美・瀬戸優理子・松王かをり 以上5氏
- 9 問 合 先 会 長 五十嵐秀彦 TEL 011-852-7014
顕彰係 菅井美奈子 TEL 011-592-6426

幹 事 会 報 告

R7.5.22(木) かでる2・7 610会議室 (12名)

- 1 第34回中北海道現代俳句大会報告（事業部）
- 2 令和7年度俳句研究交流句会（組織活動部）
- 3 第26回中北海道現代俳句賞（顕彰係）
- 4 会報104・105号（広報部）
- 5 三役・顧問／中現俳賞選考委員の会（事務局）
- 6 今年度の事業関係について（会長）
- 7 その他／会員動向他（事務局）

会 員 動 向

〈入 会〉

橘 弥生・黒田恵美子

〈退 会〉

伊奈 青人・宮下美紗子

檜垣 桂子・平川 靖子

会員数105名（R7年6月現在）

前号訂正：会報103号2ページ表中の作品名は「すこし後ろ」の誤りでした。謹んで訂正いたします。

一般社団法人 現代俳句協会 入会のご案内

（一社）現代俳句協会では、多くのみなさまのご入会をお待ちしております。
ご家族・ご友人にも是非ご紹介ください。

入会金・年会費など事務局までお問合せください。

中北海道現代俳句協会 会費納入のお願い

当会年会費2,000円の納入は振込です。手数料もご負担下さい。口座番号は以下です。
02780-9-48961

中北海道現代俳句協会 入会のご案内

当協会にはお住まいの地域に関わらず入会頂けますが、その際上記（一社）現代俳句協会の入会が必須条件です。ただし他の地区協会にて既に（一社）現代俳句協会会員となっている場合、重ねての入会は不要です。不明点は事務局にお尋ねください。

1日限りの

俳句カフェ

へどうぞ



2nd

◇作句レクチャー・作句タイム

◇当日発表の席題で一句

◇座談会 五十嵐秀彦・瀬戸優理子・松王かをり

◇カフェ句会(選句&講評タイム)

*最高句点句&各審査員推し句には賞品有り

日 時：2025年11月30日(日曜日)
13:00(開場12:50)～16:00

会 場：かでる2・7(730研修室)

会 費：1,000円(学生は無料)

対 象：俳句の好きな方すべて(初心者歓迎)*定員50名程度

主 催：中北海道現代俳句協会 Tel 011-641-1007

*8月30日開催の俳句研究交流句会にてフライヤー配布&参加者募集開始予定!

*ちょっとしたお菓子を用意しております。お飲み物をご持参くださいませ。

事務局便り

事務局長・F よしと

暑さも本格的になり会員の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。さて今回の会報に掲載しておりますが中北海道現代俳句協会の事業は前半の総会及び大会が終了し、今後は俳句研究交流句会、俳句カフェ、中北海道現代俳句賞の募集などを進めてゆく予定であります。

四月の大会は多くの方々があり盛会となりました。あらためて、事業部の皆様、参加頂いた会員各位に御礼申し上げます。

さて八月は俳句研究交流句会、十一月は俳句カフェのイベントを予定しています。この二つのイベントは皆様のご参加とともに新会員の入会促進も兼ねており、皆様の周辺で俳句に興味ある方がおられれば是非ともご参加を促してお連れ頂きたいお願い申し上げます。

今年度の北海道現代俳句大会にて当協会会員の石井美髯さんが第一位を獲得しました。大変おめでとうございます。今後も更なるご活躍を期待いたします。また他地区の大会やイベントにても会員各位の積極的な応募により入賞が相次いでおります。当協会大会にて他地区からの応募者が上位に入賞しており各地区各協会の交流のきっかけとなる機会と思えます。是非とも積極的にご参加されるようお願い申し上げます。

編集後記

広報部・青山 醉鳴

会報一〇四号をお届けします。四月から始まった各地区大会や様々な結社・協会の大会など、例年の定期の行事も一段落しました。今号に大会記や入賞作品をまとめて掲載しておりますのでご覧ください。中北海道現代俳句協会ではこのあとも、偶数月に青のフロント句会、八月に俳句研究交流句会、十一月に俳句カフェの開催を予定しています。青のフロントは当日席題ありの三句出し、五十嵐会長が世話人のごく一般的な句会です。俳句研究交流句会是一句を事前投句のうえ、当日互選して、点数に限らず鑑賞に重きをおいた句会。俳句カフェは当日発表の席題で投句していただき、選者三人の選による優秀句と、会場のみなさんの人気句を抜いていくイベントになります。いずれも参加自由。お時間を調整してお誘いあわせのうえ、是非お越しください。お申込みは事務局でもお受けします。

俳句甲子園地方大会札幌会場には旭川実業・旭川東・旭川西・札幌西の四校五チームのエントリーがあり、エルプラザにて今年も無事に開催されました。昨年は合同チームだった旭川実業との決勝戦にて旭川西が勝利し、八月の本選へ駒を進めました。作品も然ることながら、今年は各校ともディベートがたいへんに力強く、良い鑑賞に溢れた大会でした。